

令和5年4月1日
日本大学歯学部

歯学部の教育理念，教育目的及び教育基本方針（三つの方針） とアセスメント・ポリシー

歯学部の教育理念

大正5年，佐藤運雄博士が創立した東洋歯科医学校が，歯学部の前身です。当時の日本の歯学は，基礎医学の知識に乏しく技術偏重であったため，佐藤博士は，当時としては極めて先駆的な「医学的歯学」の教育理念，すなわち，歯学を単に口腔や歯だけにとどめず，全身との関連において組織的に学ぶことの重要性を強調しました。この理念は，現在，日本の歯科教育の基本となっています。

歯学部の教育目的

本学部は「日本大学の目的及び使命に則り，歯学の理論及びその応用を教授し，併せて人格を陶冶して有為な歯科医師を養成すること」を教育目的としています。

すなわち，幅広い教養と総合的な判断力の上に立って，常に最新の科学的情報を基にして問題を探求する能力の高揚と，診療に際して患者本位の歯科医療に携わることのできる以下のスキルを備えた歯科医師を養成します。

1. 医学的歯学の理念に基づく歯科医学の専門知識と医療技術を備えている。
2. 豊かな教養と寛容な人間性を備え発信力のある医療人として活躍できる。
3. 生命を尊重し奉仕の心と高い倫理観を有している。
4. 医療・社会の進歩や変革，生涯学習に対応できる省察力と探求心を備えている。
5. 国民の健康維持・増進に貢献し，地域口腔保健活動でリーダーシップを発揮できる。

●歯学部「卒業の認定に関する方針」(ディプロマ・ポリシー)

日本大学教育憲章では「日本大学マインド」として「日本の特質を理解し伝える力」「多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力」「社会に貢献する姿勢」の三つを掲げています。日本大学歯学部は、「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」からなる日本大学の教育理念「自主創造」を基盤として日本大学マインドを有する医療人を育成します。すなわち、全学の学位授与の方針及び歯学部の教育目標である「課題探求能力や自己学習能力を高め、人間性豊かでの確な診察・治療を行える、社会に有為な歯科医師を育成する」に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生の卒業を認定し、学位(学士)を授与します。

DP 1

歯科医師としての責務を理解し、患者中心の歯科医療に必要な倫理観をもって医療を実践することができる能力

DP 2

世界の歯科医療の現状を理解し、異なる価値観をもつ人と積極的にかかわり共生・協働できる能力

DP 3

生涯にわたってリサーチマインドを持ち続けるための基礎となる、論理的・批判的に思考することができる能力

DP 4

医歯一元論に基づく歯科医学、ならびに自然科学、人文科学の知識を有し、必要に応じて、臨床・教育・研究に応用することができる能力

DP 5

自主創造の基本理念に則り、最新の科学的根拠に基づく安全で効果的な患者中心の歯科医療を実践することができる能力

DP 6

患者・患者家族・医療従事者の立場を理解し、尊重し、適切なコミュニケーションをもって医療を実施することができる能力

DP 7

歯科保健・医療・福祉・介護の現状を理解し、多職種と連携しながら地域医療に貢献することができる能力

DP 8

生涯にわたって自己研鑽に取り組むための基礎となる、自己を謙虚に見つめ、振り返ることができる能力

●歯学部「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)

日本大学歯学部は、学位授与の方針(ディプロマポリシー)に示した能力を備えた歯科医師を育成するために、以下の教育課程(カリキュラム)を編成し、実施します。

1 カリキュラム編成

歯学部のカリキュラムでは、教養科目、専門科目及びその他卒業時の到達目標の達成に必要とする科目を系統的、統合的、段階的に配置しています。すなわち、10のコース「歯科医学を学ぶための基礎」「歯科医師として求められる基本的な資質」「社会と歯学」「診察の基本」「全身管理」「口腔と顎顔面疾患の治療」「歯と歯周組織の治療」「歯質と歯の欠損治療」「小児歯科・矯正歯科治療」「スペシャルニーズデンティストリー」に含まれる科目群を3つのフェーズ(フェーズ1:第1・2学年、フェーズ2:第3・4学年、フェーズ3:第5・6学年)に分けて配置し、学生が主体的に学修できるカリキュラムを編成しています。

2 各フェーズにおける学修内容及び学修方法

フェーズ1(第1・2学年)は教養科目及び基礎歯学の科目が配置されており、各科目の目的・目標に応じた方法で教育を実施します。第1学年前期では、歯学部での学修に必要な基礎的知識を講義と実習により再確認しながら主体的な学修の定着を図るとともに、課題解決型学修(PBL)で論理的な思考能力及び問題解決能力を育成します。また、歯科臨床早期見学実習を通して、医療人としての自覚と態度を涵養します。第1学年後期から第2学年では、基礎歯学の科目を中心に講義と実習を行うことで、臨床歯学を学ぶための基盤を形成します。フェーズ2(第3・4学年)は、主に臨床歯学の科目が配置されており、講義と臨床基礎実習を行うことで基礎歯学を含めて知識と技能を統合させます。また、より専門性を高めた形でPBLやシミュレーション実習を実施することで、臨床における問題解決能力の基礎を育成します。フェーズ3(第5・6学年)では、診療参加型臨床実習において、Student Dentistとして患者に対する診療を担当することで歯科臨床能力を育成します。また、基礎系科目と臨床系科目を統合した総括講義を実施します。さらに、6年間の教育プログラムを通して医療人の基礎となるコミュニケーション能力、倫理観、プロフェッショナリズムに関する教育を実施します。

●歯学部「学修成果の評価方針」(アセスメント・ポリシー)

日本大学歯学部は、学生の学修成果の達成状況を、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの3つのポリシーに照らして検証します。検証結果は、日本大学歯学部の現状把握と教育改革・改善ならびに学生への学修支援に活用します。

1 教育課程(学部)のアセスメントポリシー

- ① 日本大学歯学部が求める知識・技能・態度が身についているか、それぞれに適した方法で多面的かつ総合的に検証・評価します。
- ② Student Dentist として患者診療を担当できる能力が身についているか、共用試験(CBT及び臨床実習開始前OSCE)を用いて総合的に検証・評価します。
- ③ 臨床研修開始時に必要な臨床能力が身についているか、診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(CPX及びCSX)を用いて総合的に検証・評価します。
- ④ ディプロマポリシーに掲げた能力が身についているか、成績評価、単位修得状況及び卒業要件達成状況等を用いて多面的かつ総合的に検証します。

2 科目ごとのアセスメントポリシー

シラバスで提示された学修目標に対する評価や学生授業評価等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証します。なお、科目の成績評価は、筆記試験、口頭試験、実技試験、レポート、ポートフォリオ及び観察記録など、科目の特性や到達目標などを踏まえて、教員がシラバスに明示した方法に沿って行います。

3 各ポリシーの検証方法

	入学前・入学直後 アドミッションポリシーを 満たす人材かどうかの検証	在学中 カリキュラムポリシーに則って 学修が進められているかの検証	卒業時・卒業後 ディプロマポリシーを満たす 人材になったかの検証
教育課程 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・各種入学試験 ・入学前準備教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績(学年評価点・GPA) ・総括試験1・2の成績 ・修得単位 ・CBT・臨床実習開始前OSCE ・CPX・CSX ・アセスメントテスト ・学生授業評価アンケート ・学生満足度向上調査 ・退学率、休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・総括試験3の成績 ・修得単位 ・歯科医師国家試験 ・卒業生アンケート ・学位授与率 ・修業年数
科目 レベル		<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績(評価点) ・学生授業評価アンケート ・パフォーマンス評価 	

●歯学部「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)

本学部では基礎学力があり、健康で多様性に富んだ資質を兼ね備えた人を求めています。学生同士が「切磋琢磨」して自己を認め合い、高め合うことで、歯科医療に求められるプロフェッショナルとともに目指す意欲の高い人材の育成を行います。

AP1

自主創造の気風に賛同し自己研鑽できる人

AP2

医療人となる目的意識と高い倫理観をもつ人

AP3

自己の目標を実現する挑戦力を持ち努力する人

AP4

生涯にわたり学習意欲を持続し社会に貢献する姿勢をもつ人